２　ポルノ映画

『月とチェリー』

林　久登

２００４年　ラブコレクション製作委員会　８２分
監督　タナダユキ
脚本　タナダユキ
出演　江口のり子、永岡佑、平田弥里

ポルノとは何ぞや、ということになると難しいが、私の中では、この作品をポルノと見た。スレンダーな江口のり子は私好みで、そこそこエロっぽかったからだ。アナーキーな彼女のキャラが主人公にシンクロし、爽やかな作品に出来上がっている。

２浪して、やっと、ある大学に入った男、(永岡佑) はボーッとしている間に、官能小説サークルに入れられてしまう。そこにはサークル唯一人の女、(江口のり子) がいた。彼女はすでに官能小説家としてデビューしていて、男は歓迎会の席で、彼女にまだ女を知らないことを見破られてしまう。そして、それからというもの、彼女の小説のネタに利用される。

まず彼女によって童貞を奪われ、彼女が用意したＳＭ嬢に弄ばれ、あげくの果ては、彼女の見ている前で、デリヘル嬢ともセックスを強要される。このデリヘル嬢とのからみは圧巻。

男は、気の入らないセックスだが、彼自身の意志とは無関係に、モノは勃起している。だからセックスは可能で、何で俺はこんなことをしているのだろうと思い、泣きながら上下運動を繰り返す。そのありさまを、女は押入れの中から盗み見している。

男は、はじめ彼女に恋心を絡めていた。だから、男が真剣になればなるほど面白い。しかし、女は自分のエロ小説を書くためには手段を選ばない。そのサークルの男たち全員と、何らかの形で関係している。それを知った男は、最初は怒り狂うが、次第にそんな遊び心がわかってくる。

男と女の意識のズレを見事に、しかもコミカルに活写したタナダの感性は素晴らしい。小品だが見逃せない作品